

資料 2

朝鮮人虐殺事件の犠牲者

調査人	人 数	出 典
① 日本政府発表	231人、「被害人員表」で「庁名」をあげ「東京36人、横浜2人、浦和94人、千葉74人、宇都宮7人、前橋18人、合計231人」とある。	司法省刑事局報告書『震災後ニ於ケル刑事犯及之ニ関連スル事項調査書』
② 『報知新聞』	519人	1923年10月20日付
③ 『読売新聞』	300人	1923年10月21日付
④ 『東京朝日新聞』	432人	1923年10月21日付
⑤ 崔承万 <small>チエ・スンマン</small> (在日本東京朝鮮基督教青年会総務)	2613人(1923年10月末までの中間報告) ※ただし、慰問班の虐殺数は5000人と推定。	「日本関東震災時わが同胞の苦難」(『極熊筆耕—崔承万集』金鎮英、1970年)
⑥ 吉野作造 (政治学者)	2613人	「朝鮮人虐殺事件」(『圧迫と虐殺』1924年)
⑦ 『独立新聞』	6661人 (1923年11月末までの最終報告)	「本社被虐殺僑日同胞特派調査員第一信」(『独立新聞』1923年12月5日) (在日本関東地方罹災朝鮮同胞慰問班の最終調査報告)
⑧ 山田昭次 (立教大学名誉教授)	「数千人に達したことは疑いないが、これを厳密に確定することはもはや今日では不可能」	『関東大震災時の朝鮮人虐殺—その国家責任と民衆責任』(創史社、2004年)
⑨ 工藤美代子 (作家)	およそ600人から800人 (ただし、日本に住む朝鮮人を「テロ行為、ゲリラ部隊と認定」)	『関東大震災「朝鮮人虐殺」の真実』(産経新聞、2009年)、『SAPIO』(2009年、5月13日号)
⑩ 内閣府中央防災会議 災害教訓の継承に関する 専門調査会	「殺傷事件による犠牲者の正確な数は掴めないが、震災による死者数の1～数パーセント」としている。震災の死者105385人(同「第一編 発災とメカニズム」)から計算すると、最小1053人から最大9484人と考えられる。	『1923 関東大震災報告書【第2編】』(内閣府の「中央防災会議報告書」)

注 1923年9月7日から禁止されていた朝鮮人問題の報道が10月20日に解禁。②～④の新聞各社の報道の数字は⑧山田昭次『関東大震災時の朝鮮人虐殺—その国家責任と民衆責任』(創史社、2003年)による。

工藤美代子『関東大震災「朝鮮人虐殺」の真実』(産経新聞出版、2009年)は、朝鮮人暴動は「噂ではないのだ。実際に放火や殺人、強姦事件が震災発生直後に起こったのである。自己防衛の正当性が認められねばならない」として、朝鮮人暴動に対する正当防衛を主張し、さらに「被殺者総計六千六百六十一人」(『独立新聞』1923年12月5日付)は「嘘の数字を羅列」したもので不正確だとした。